

第1回学校運営協議会 議事録

校名	府立寝屋川支援学校
校長名	南 貴子

開催日時	令和 7年 11月 12日(水) 10:30 ~ 12:00
開催場所	府立寝屋川支援学校 1階 視聴覚室
出席者(委員)	山中会長(学校法人奈良学園 奈良学園大学) 眞鍋副会長(帝塚山学園 帝塚山大学) 森本委員(寝屋川市立北小学校) 藤本委員(寝屋川市立あかつき・ひばり園)欠席 川橋委員(グローバルコミュニティ株式会社)
出席者(学校)	南校長、清水事務長、日置教頭、東川教頭、亀村首席、西橋首席、安慶田首席、渡辺首席、伊佐敷小学部主事、横野中学部主事、山本高等部主事、坂元進路指導主事
傍聴者	
協議資料	特別支援学校知的障がい者用著作教科書(活用事例集)
備考	

議題等(次第順)
(1) 定足数確認
(2) 校長挨拶
(3) 報告事項
特別支援学校知的障がい者用著作教科書(活用実践事例集)
(4) 校内見学
(5) 協議及び提言
報告事項について
校内見学について
(6) 校長挨拶
(7) 事務連絡
協議内容・承認事項等(意見の概要)

(3) 報告事項
特別支援学校知的障がい者用著作教科書について
すべての学習ニーズを教科書のみで満たすことは難しいため、☆本を活用しつつ、教科の教材をアレンジして授業を展開している。
・高等部1年生の事例として、国語☆5の教科書にある「俳句」の単元の活用を報告した。教科書見開き1ページの内容を、写真を用いたスライドで分かりやすく提示した。また、季節を示してワークシートを提示したり、先輩たちがつくった俳句を紹介したりして、実体験を俳句にする活動も行った。
・「シラバス×教科書(☆本)」＝「魅力ある授業づくりの実現」アンケートを実施。50件の回答を得られた。授業計画や個別の指導計画の目標設定、観点別評価シラバスが活用されていることがアンケート結果から読み取ることができた。また、☆本の活用場面は教材研究や授業という回答が多かった。☆本活用頻度としては、「あまり使っていない・使っていない」という回答が50%だった。活用によって、授業がよくなったと感じた工夫や実践例もアンケートから得られたため、「あまり使っていない・使っていない」教員がより活用しやすいくために、事例の紹介等の活用法を示していくことが今後の課題である。
・AIにアンケート結果を要約してもらったところ、①授業づくりに対して学び合いたい意欲が強い②ICTや教材づくりのスキルを伸ばしたい③授業準備や引き継ぎのしんどい部分がでない④若手・中堅への支援ニーズが高い⑤授業の質を支える環境整備も課題⑥研修・外部とのつながりにも前向き という6つの観点に整理された。

(5) 協議及び提言
①報告事項について
・眞鍋委員)教員が多忙な中でも授業準備に時間を注いでいるのがよくわかった。さまざまなことを教えたいと思われるが、子どもたちの状況を見て学習内容を精査して見ている。パワーポイント、ワークシートなどを見ているとその印象は強い。先生方のご苦労がわかった。ありがとうございます。解説書の値段はかなり高い。1冊が何万円もする。いろいろな先生が、特に新しい先生に1冊ずつあれば良いが、どうしているのか。
・安慶田首席)教科ごとに何冊あるかは1冊ずつ不足でわからない。各学部各学年に1冊ずつあればいいのという声は聞いている。今後少ずつ増やしていきたいとは思っている。先生方も周知していけたら、全くないわけではないので、手早く借り出して共有しているのが現状。
・校長)学校経営計画に記載している内容について、今後取り組んでいく方針に関してコンセンサスが得られた状況である。徐々に買っていく予定だが、どの予算にもないため、校長マネジメント予算になっている。
・山中会長)ご苦労されている。引き続きすべての先生方が手を取り見ていただけるように、☆本について、3階の職員室出たところに輪置に並べておられる。図書室の貸し出しのように工夫して進めていただけたら。
・松本委員)一番高いレベルの高等部の俳句の授業、一般的に知識として知っておけばいい人々のコミュニケーションが取りやすい内容をピックアップされて、教えられている。知識として知っておけば良いことが、ちゃんと学べているんだと感じた。色々な機会を与えるというところで学が場がある。それぞれのレベルに合わせて学べる内容を分けている。とても素晴らしいと思った。ありがとうございます。
・川橋委員)俳句の授業、教科書からパワーポイントで資料を作っている。時間がなくて、時間がかかって大変だと思う。拝見させていただいてすぐ良い資料だと思っただけのもの、非常に時間がかかっているのではというところで、先生方は授業で使う資料の情報共有はどのようにされているのか。良いものであれば共有できたらと思うが、企業もなかなかそういう風になっていない。
・安慶田首席)教材の共有は、各学部学年で集約の仕方がバラバラな状況。教材バンクという形で教務から先生方が実践されている教材を1つの所に集約して、どこからでも先生方がアクセスできるようにし、授業づくりに生かせるように現在進めている。
・山中会長)素晴らしい。さっきのChatGPTにもあったが、若手中堅の支援につながっている。子どもたちのためにやっという、力を合わせてやっというという寝屋川支援学校の伝統が昔からある。ベテランの先生が若い先生にICTのことを聞くことも交流の一つ。交流が普通になれば素晴らしいと思う。
・松本委員)個別最適な指導の課題は、本校も同じ。アセスメントを含めた上での難しさを感じている。子どもたちの課題の幅が大きければ大きいほど、よりご苦労されていると思う。働き方改革にむけて、教材バンクも大事な視点だがシステム化だけではその実現は難しいと思う。人と人との交流をいかに作り、共有していくかというところが結局、重要なのだと思う。
・山中委員)小学校の実際の状況を話していただいた。人と人との心の通い合い、そこから子どもたちへの学び教えるということも築いていけると思う。支援学校の良いところは、一つの授業を複数の先生でやっておられる。このチームというところが学びの多いところだと思っている。若い先生方は悩まれていると思うが、中堅・ベテランの方と一緒に進むことで、何か学びになって子どもたちに還元されればというは、支援学校ならできると思うのでぜひ深めていただけたら。

②校内見学について
・川橋委員)高等部の舞台発表練習、急に来たのに緊張することなく練習されていた。本番も悔いのないようにしてもらえたら。午後から私たちの企業で高等部向けにビジネスマナーの授業をさせていただく。私も頑張らなければいけないながら見させてもらった。
・松本委員)子どもたちの実態に対して、できることをまずは見つけてあげるところを大事にされていると思う。粘土を触るとか、いろいろな興味をもたせていただく。挑戦させていただくことで世界が広がっていくというところがありがたい。中学部段階からルールを守るなど社会に出るための訓練みたいなものをスタートしていただいているところに感動した。高等部の校内実習の段ボールの袋詰め、醤油さしのめざり、集聚力がいる。事業所では1時間位で休憩を入れたりするが、今から集中する練習をしているところに、これから旗立たれる子どもたちにとってすごくよい学びだと思ふ。ありがとうございます。
・森本委員)生活体験が園児の時間の手の巧緻性を育む機会が減ってきている。そういう意味でも粘土等の取り組みはとも大事だなと感じた。また、集中をもって地道にやっというところにも足りていないことが多いので、本校でも意識的に取り組んでいきたい。ありがとうございます。
・眞鍋委員)授業見学ありがとうございました。外部の人に見せるための特別な授業ではなく、日ごろの授業を見学できて良かった。学校経営計画にも記載されていたので、百聞は一見に如かずで大変良くわかった。社会に出るための学びを、小学部からそうだが、高等部でしっかりと指導しておられる。生徒さんの姿を見て本当に安心というか、信頼感を持った。ありがとうございます。
・山中会長)高等部は学発の練習、校内実習の時期ということで、特別のカリキュラムで動いている。中学部は休み時間の様子、生徒から話かけてくれたのも良かった。小学部はまた人数が増えているなど。以前は視聴覚室で小学部も集会をしていたが、体育館での様子では、全校児童生徒が集まっていたのかというくらいの人数だった。その中で苦労されていると思う。
・眞鍋委員)ランサムウェア。京都の私立の中高등학교で、個人情報抜き取られた事件が新聞に載っていた。支援学校は特に個人情報が大変だと思うので、来年度の経営計画等に、また大阪府の方針にも反映してもらえたら、子どもたちも保護者も先生も安心かなと思う。ご検討ください。
・山中会長)教科書の☆本活用については、次期学習指導要領の改訂が間近に迫る中、支援学校では子どもの学習段階も多様であるため、一人ひとりの個別最適化が重要であることも確認されました。一人ひとりの教育的ニーズに合わせてという点で言うと、前回は小中の活用事例を見せていただいて、今回は高等部の活用事例を映像で示していただけたのは有意義でありました。経営計画の中に記載されるように、引き続き活用を進めていただけたら。ただし、すべての児童生徒の実態には合っていないところも、先生方のアンケートにもあったように課題。教科書の活用が、それぞれの子どもの個別の指導計画にどのよう反映されて、どう進めていくのかというところ。教科書合わせ会などで検討していただけたら良いのではないかと思います。学校経営計画の進捗状況、学校教育自己診断を保護者様、教職員の皆さんがなさっているということで、結果が出たらまた教えていただきたい。検討すべきことがあればみんなで検討し、学校の運営・経営がよりよくなるようご意見を伺います。

(6) 校長挨拶
・たくさんのお褒めの言葉をいただき、私も頑張らなければと思っている。☆本の話では、小学部・中学部・高等部で☆本を使うパーセンテージをお示ししたが、中学部、高等部と年齢が上がってくると、社会に出ていくこと、生き方というところを考えていかなければいけない。ホウレン・ソウができること、挨拶ができることというところが教育のポイントが変わっていく。焦点が合っていく。小中高の12年間のカリキュラムの中で社会に出ていくことが最後のゴール。そこに向けてみんなでどうやってやっというか、日々考えてやっというべき。学校経営計画の進捗は、今後集計したものを示しますので、ご意見をいただきながらまた来年度に向けて計画していきたい。

(7) 事務連絡
・協議内容によっては次の開始時間を早めさせていただきます。□

今回の会議日程	
日時	令和 8年 2月 4日(水) 10:00～
会場	寝屋川支援学校 視聴覚室